

フードバンクを活用した食品ロス削減啓発事業

フードバンク推進実行委員会

(特定非営利活動法人フードバンク福岡、福岡市環境局事業系ごみ減量推進課)

1 共働のきっかけ・必要性

フードバンクは、品質に問題がないにもかかわらず市場で流通できなくなった食品（いわゆる「食品ロス」）を集め、食べ物を必要とする施設や団体へ無償配布する活動であり、食品ロス削減という環境的側面の問題と、福祉的側面の問題を同時に解決できる活動として期待されています。

(1) NPOが事業を提案した理由

食品ロス削減は、SDGsのターゲットとしても挙げられる世界的課題であり、福岡市の課題でもあります。その一方で、食べ物を必要としている人たちが増え、特に子どもの相対的貧困は大きな社会課題となっています。

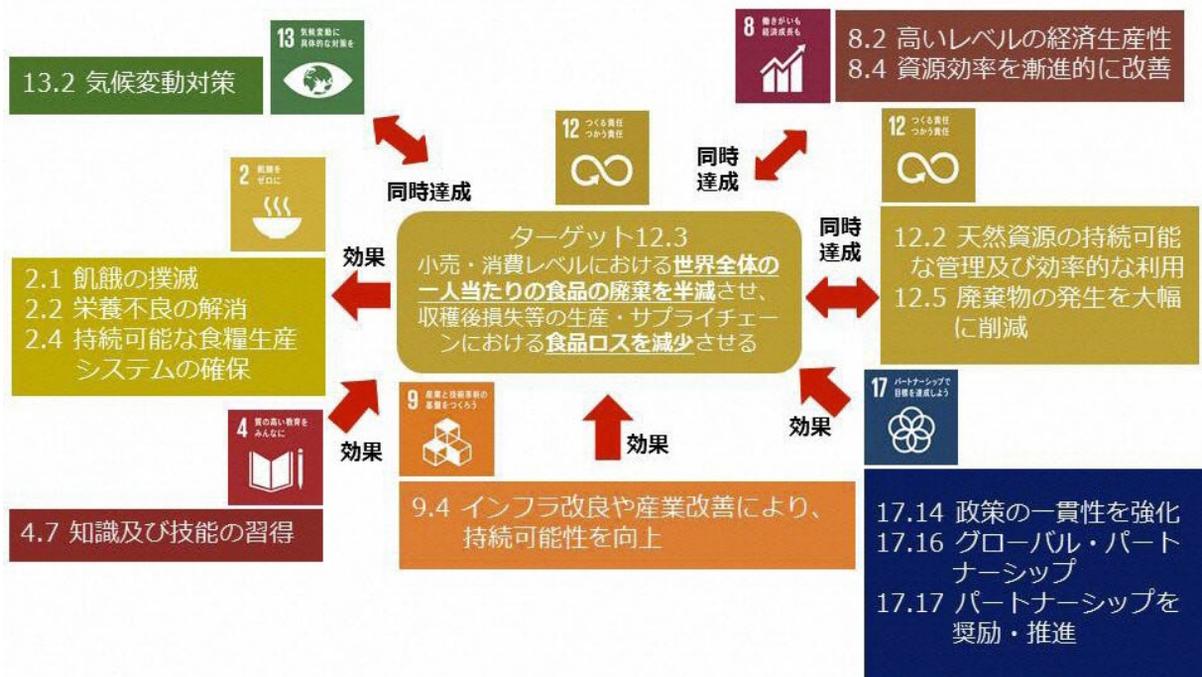
そうした中、フードバンクが注目を集めるようになりました。しかしながら、日本のフードバンク団体の食品取扱量は把握している範囲では年間約3,000トン※1であり、日本の食品ロス全体量（年間570万トン※2）の0.05%にしかすぎません。また、福岡市でのフードバンク活動は平成28年度に開始したばかりで認知度が低いため、市民や市内企業への普及・啓発による活動の定着と拡大が必要です。

共働事業により、フードバンクを活用した食品ロス削減に前向きに取り組む事業者が増え、多種多様な食品の提供を受けることができるようになるとともに、市民意識の醸成にもつながり、ボランティア参加や企業からの寄付が得やすくなることが期待できます。

また、フードバンクが福岡市の循環型社会の一部として有効に機能することで、福岡市の課題でもある食品ロス削減を推進することができると考え、提案に至りました。

※1 平成31年度 持続可能な循環資源活用総合対策事業フードバンク実態調査事業

※2 農林水産省令和元年度推計



(2) 市担当課が事業に取り組む理由

福岡市において、事業系ごみの量は全体の半分を占め、その減量・リサイクルが重要な課題となっています。フードバンク活動の推進に取り組むことで、事業所から排出される食品ロスが削減できることを期待しています。

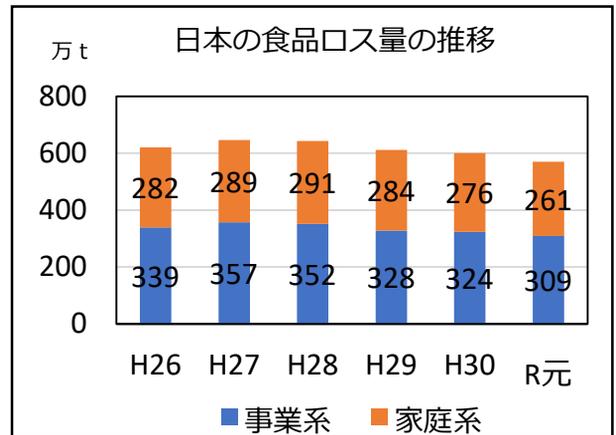
2 事業の目的

フードバンクには、事業者からの提供（フードバンク）と家庭からの提供（フードドライブ）の2通りの食品提供ルートがあります。

家庭からの食品提供では、保存状態が様々であるため保管方法による影響が少ない缶詰等、食品の種類が限られ、また、1提供者あたりの提供量が少なくなります。一方で、事業者からの食品提供では、それまでの衛生管理状態が把握しやすく、安定した品質が期待できることから生鮮食品をはじめ多種多様な食品を提供いただけるとともに、1提供者あたりの提供量は多くなります。

また、全国的に家庭内で発生する食品ロス量と事業所から発生する食品ロス量は約半数であり、近年横ばい傾向で減少していない状況です。

これらのことから、食品ロスの削減による循環型社会づくりの推進及び、安定的食品提供量確保のため、事業所から発生する食品ロスを対象にフードバンク活用の啓発を実施することとしました。



3 事業目標及び達成度

(1) 令和3年度は、本共働事業の最終年度であり、フードバンクを活用した事業系食品ロス削減へ向けての方策を完成させる年でもあります。令和2年度までに行った事業の分析をもとに、①食品受取インフラの検証による配送プランの作成を行うとともに、②持続可能なフードバンク活動に向けたアクション・プランを作成し、③「フードバンク活用説明会」を開催し、3年間の事業報告を行いました。

(※アクション・プランとは、食品提供企業の新規開拓や継続提供促進をはかるための普及・啓発の方法や広報戦略、広報物に加え、フードバンク活動が持続可能であるために必要とされる活動資金やその調達方法について、フードバンクが実施する具体的な行動計画です。)

(2) 定量的目標として、フードバンク福岡の食品取扱量増加及び、食品を提供する企業数の増加を目指しました。

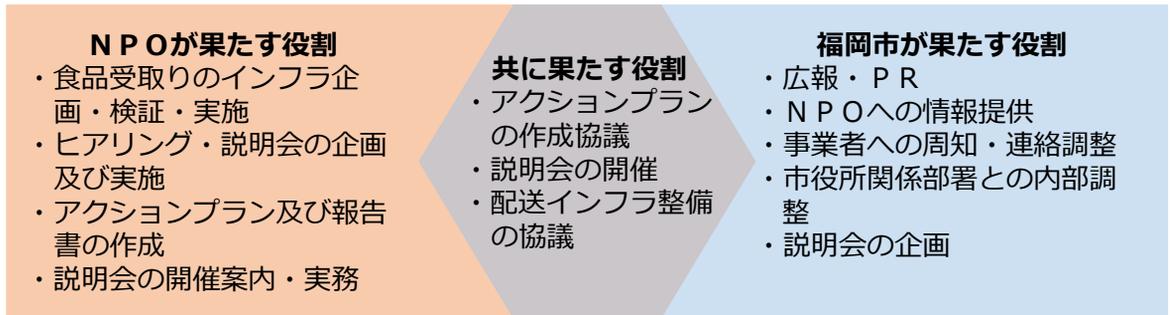
食品ロス削減量：フードバンク福岡が食品提供を受けた量

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
目標		80 t	90 t	170 t
実績	74 t	86 t	160 t	236.7 t

食品提供企業数：フードバンク福岡へ食品を提供している企業数

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
目標		100社	110社	194社
実績	89社	116社	164社	203社

4 役割分担



5 事業内容

(1) 食品受取インフラの検証

食品提供企業が食品を寄贈する際の課題の一つとして、食品の納品手段が挙げられていることから、企業からの食品受取インフラの検証を実施しました。

①課題

昨今増加している備蓄品の提供に関して、自前での輸送手段を持たない企業が多いこと、一度に大量の受取りが発生するため積載量の大きな車が必要、といった課題がありました。

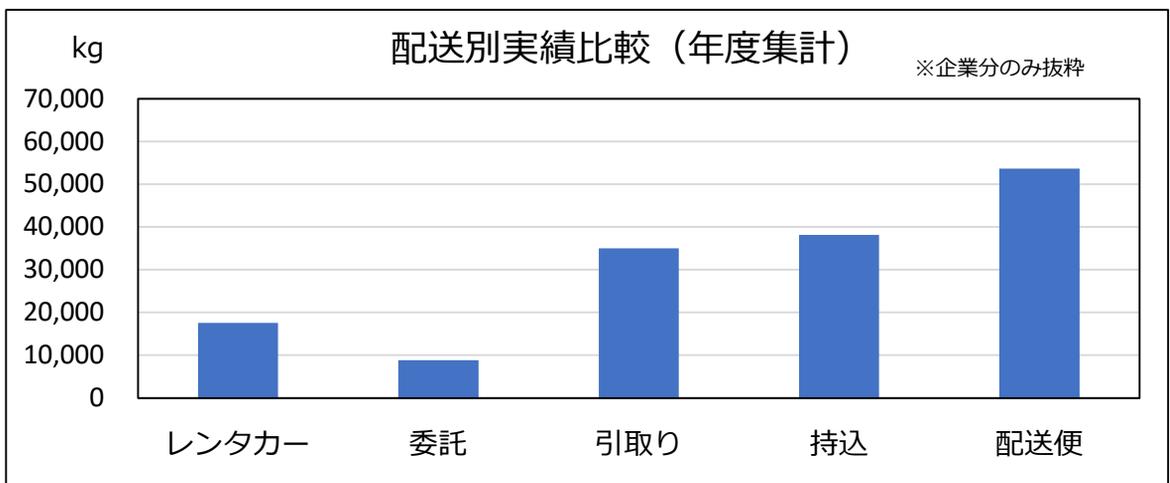
②対応

効率的な配送整備に向けて、現状の配送状況を把握するとともに、下記の取り組みを実施しました。

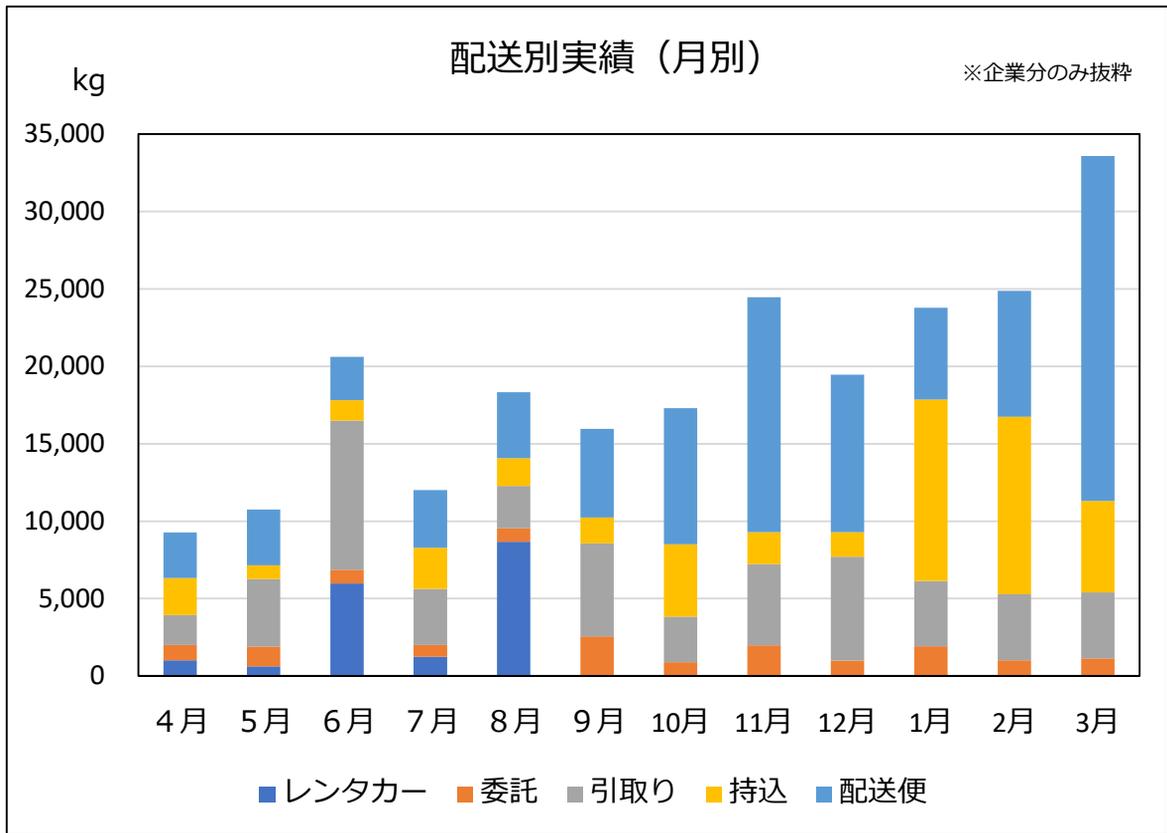
- ・受取日を1日増やし、都度対応から曜日を決めることによる効率化
- ・食品受取を2名体制へ変更し、企業からの食品受取対応回数を増加
- ・ワンボックスカーを1台増車し、企業からの食品受取対応可能回数を増加
- ・2tのレンタカーを使用し、1回あたりの積載効率をアップ
- ・大量の食品を一括で受取れるようにするため、事務所と倉庫の移転を行い、食品の保管場所を1か所に集約
- ・委託配送契約を増やし、大量の食品引取りの体制を整備

③結果

食品企業から大量の一括納品が行えるようになり、食品提供量も増加するとともに、経費面でも改善できました。



- レンタカー：フードバンク福岡が2t車を1日単位でリースして食品を受取り
- 委託：フードバンク福岡が他の団体、配送業者へ依頼して食品を受取り
- 引取り：フードバンク福岡の所有する車で食品を受取り
- 持込：食品メーカーの方がフードバンク福岡の倉庫まで納品
- 配送便：食品メーカーの方が配送業者を使用してフードバンク福岡へ納品



移転前：鶴田倉庫
倉庫約30㎡（常温倉庫）
事務所35㎡



移転後：友泉亭倉庫
倉庫133㎡（低温倉庫）
事務所65㎡

コメント

- 持込の増加は学校給食、業務用メーカー等の増加によるものです。
- 配送便の増加は、令和3年12月に友泉亭倉庫へ移転したことにより、一括納品での対応が可能になり、一回当たりの提供量が増加したものです。
- そのため、レンタカー、引取り対応が減少し、経費面での改善にもつながっています。

(2) アクション・プランの作成

令和元年度～3年度に行った事業の分析をもとにアクション・プランを作成しました。

① 作成の目的

フードバンク活動は社会的ニーズが高まっており、フードバンク福岡の運営も見直す必要が出てきたことを受けて、今までの活動を振り返るとともに、安定的に団体運営を行うことを目的として作成しました。また、多くの企業・団体にフードバンク福岡の活動を理解していただき、安心して参加いただけることも目的としました。

② 内容

- ・フードバンク福岡の目指す姿
基本理念、行動指針
- ・フードバンク福岡の体制
管理体制、施設、経営、広報活動等
- ・フードバンク福岡の課題と行動計画
基盤整備と機能強化、活動資金の確保、広報活動の強化
- ・フードバンク福岡が掲げる目標
インフラ整備、安定した資金運営、事業規模



5. フードバンク福岡の課題と行動計画

フードバンク福岡は、2017年の本格的な活動開始以来、食品ロス削減と福祉活動の両面で成長してきたとはいえ、まだまだ多くの課題を残しています。今後の活動に向けての課題とその解決に向けた行動計画を以下に示します。

(1) 基盤整備と機能強化

① 施設、配送インフラの整備と運用ルール

課題
フードバンク福岡への食品提供量と食品受取団体数が年々増加していることから、2021年12月に城南区友泉亭へ事務所及び倉庫を移転し、設備を拡充・集約しました。しかし、今後も増加が見込まれることから、友泉亭本部を福岡県全体のハブ倉庫として使用するための運用計画と、福岡県全体を網羅するための配送インフラの整備が必要です。

行動計画
配送インフラの整備として、4t車を中心とした委託配送を行い、食品引き取りの効率化を進めると共に、他のフードバンクとの食品流通体制を検討します。また、食品保管能力の増加と施設の拡大に対応した運用計画の作成と食品管理システムの構築を検討します。

② 地域単位での食品配布施設の構築

課題
必要な方への食品提供をより円滑にするため、より多くの方が食品提供を受けられるような窓口の整備が必要です。

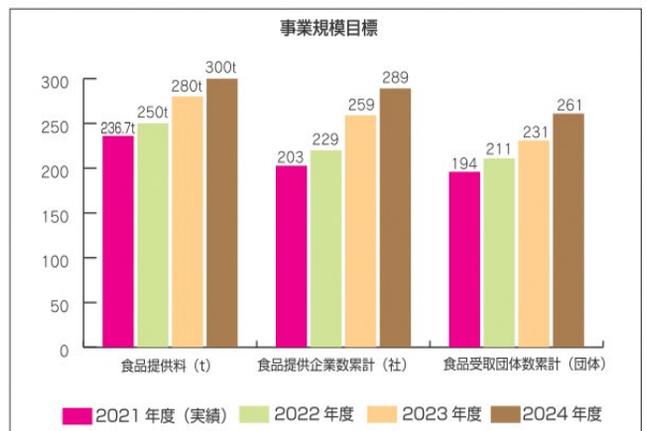
行動計画
エフコープ宗像支所、下原、久留米、友泉亭本部を起点とし、地域と連携して食品配布施設の拠点作りを行います。併せて地域単位で詳細な活動の状況の把握を行うことで、より状況に即した対応を行います。

③ 人員確保

課題
事業規模と内容に応じた人員の確保と、将来に向けた人材の育成が必要です。

行動計画
広報等により、事業規模と事業内容に応じた人員の確保を実施します。また、一部作業については委託に切り替え、作業負担軽減を検討するとともに、ボランティアの組織づくりを行います。さらに、将来に向けた人材育成のための講習会等を計画します。

11



(3) 説明会の開催

新施設の見学会を兼ねた説明会を実施。※新型コロナウイルスの影響を考慮し、小規模での開催としました。

開催日：令和4年1月11日（火） 15：00～16：30

参加者：39名

内 容：共働事業の内容説明

新事務所及び食品保管施設の見学 等（2月3日KBCで放映）



6 担当者の声・市民の声

(1) フードバンク福岡担当

企業の方からの食品提供量が増加していくなか、プロジェクトで見えてきたフードバンクの課題として、事業の整備やフードバンクの認知度のアップ、信頼される運営を具体化していくことの大切さを感じています。今後も多くの方の協力を得ながら、フードバンク活動が社会の仕組みとして定着することを目指していきたくと思います。

(2) 市担当

事業者と接する中で「せっかく作ったものを捨てるのは心苦しいが、フードバンク団体の事務所へ運ぶ人的余裕がない」という話を聞きます。また、フードバンク団体への信頼性も、食品提供への大きなハードルとなっているように感じます。今年度の事業でフードバンク福岡の活動が更に広がり、事業者がフードバンクを活用する後押しとなったのではないかと思います。

(3) 食品提供企業

- ・多くの食品をまとめて対応いただき助かっています。
- ・当社の商品を利用することで多くの方に喜んでいただけて大変感激しております。

7 翌年度以降への展開

令和3年度をもって3年間の共働事業が終了しますが、食品ロス削減においてフードバンクが担う役割は大きく、令和元年度に施行された食品ロス削減推進法にもその活動の推進が明記されています。共働事業終了後も、事業期間に得られた調査結果や、作成した資料等を基に、広くフードバンク活動を周知し、食品ロス削減につなげていきたいと考えています。